熱線遮断フィルム被覆が農薬残留挙動に与える影響の解明

【背景と目的】

今後ビニールハウスでの暑熱対策として導入が進むことが想定される熱線遮断フィルム被覆資材は、施設内の光・温度環境を変化させ、農薬散布後の残留挙動に影響を及ぼすことが懸念される。そこで、熱線遮断フィルムで被覆した施設栽培条件下における、作物中の農薬残留挙動を調査する。

【研究概要】

熱線遮断フィルムの違いが農薬の残留性に及ぼす影響を比較・評価するために、２種類の熱線遮断フィルムで被覆した施設において、コマツナおよびキュウリを栽培し、それぞれで登録のある農薬を使用基準の上限量で散布し、農薬残留量を測定する。